

## 愛知労働委員会第1回 証人審問

# 丹羽副委員長 堂々と証言

2007年年末手当減額、2008年度定昇の乗数カット、2008年夏季手当減額は何と言おうとストライキの報復だ！！

### 弁護士先生、誤字脱字が問題の争点ですか！？

2007年年末手当カット14名、2008年度定期昇給1乗数カット6名、2008年夏季手当カット14名は、2007年に行った加藤誠二さんへの不当解雇反対のストライキを行ったことによる報復だとして、私たちは愛知県労働委員会に救済申立を行いました。



会社の引き延ばし工作がある中、これまで15回に渡る調査を行ない、申立を行ってから3年が経過しました。2012年1月23日、愛知県庁にてようやく第一回の証人審問が開かれました。

今回の審問は、当時の名古屋地本の委員長だった丹羽副委員長の主・反尋問が行われました。主尋問は組合側代理人である今井副委員長、高原本部副委員長により行われ、丹羽副委員長は主任レポートの問題性、蒲郡駅事件の不当性、ストライキに至る経過とその後の会社による報復について堂々と証言しました。

続いて会社側代理人による反対尋問は、審問妨害とも思える弾劾証拠を多く提出し、尋問内容は、考える暇を与えず矢継ぎ早に早口でまくし立てる尋問でした。特に、今回初お目見えの会社代理人は、見つけてやったとばかりに組合側陳述書の誤字脱字を執拗に追求していました。終始落ちついた対応の丹羽副委員長と落ち着きが無く汗びっしょりで質問する会社弁護士とは対照的でした。



審問と審問後の報告集会には30名を超える組合員・OBが結集し怒りを持って最後まで労働委員会闘争を闘うことを確認しました。

\*なお、次回開催は2月21日、元中村明彦人事課長への尋問が行われます。